

酒々井町

# 郷土研究会会報

第119号

平成18年1月1日

酒々井町郷土研究会

広報部

## 賀正

戊午一月一日



年頭にあたり

酒々井町長 小坂 泰久

新年明けましておめでとうござい  
ます。

皆様におかれましては、輝かしい  
新春をお迎えのことと心からお喜び  
申し上げます。

昨年、第四十三代酒々井町長の重  
責を担わせていただくこととなりま  
した。初心を忘れず、常に清潔、公  
平、公正そして開かれた行政運営と  
対話を基本とした町民本位の町政運  
営に取り組み、町発展のために心血  
を注いでいく決意でございます。

中世戦国時代には下総の国を統  
治した千葉氏が本佐倉城を築城し、  
百年余に亘り政治経済の中心地とし  
て栄え、歴史的文化遺産が町内に残  
されております。江戸時代には幕府  
直轄の牧を管理する役所の町、成田  
詣での宿場町として賑わった所でも  
あります。この歴史と文化を大切に  
更に活力に満ちた魅力ある町として  
発展させていくことが求められてお  
ります。昨年度は「絵馬 Shisui」を

新年を迎えて

会長 青木 朝次

皆さん明けましておめでとうござ  
います。寒い日が続いておりますが  
皆様お変わりもなくお元気で新年を  
お迎えのことと存じます。

郷土研究会も昭和五十二年に会を  
結成して以来、運営委員の協力によ  
って会報も第一号より百号までを四

冊にまとめ製本配布できました。石  
佛調査・寺宝展示会・郷土研の絵馬  
展・酒々井町の道しるべ展・昨年度  
は懸案でありました「絵馬 Shisui」  
を発刊するなど、さまざまな業績を  
残すことが出来ました。本年も本佐  
倉城の整備が促進されますし、盛り  
沢山の行事を予定しております。



刊行されたことをお喜び申し上げま  
す、酒々井町の文化遺産である絵馬  
についての貴重な資料であり、改め  
て研究のご苦労に対しまして深く敬  
意と感謝を申し上げますと共に、皆  
様の更なるご活躍を切望していると  
ころであります。

酒々井町郷土研究会の益々のご発  
展と会員皆様方のご多幸を祈念申し  
上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

酒々井町今昔

上本佐倉 川島俊彦

一、酒々井町の古代

酒々井町は明治二十二年(一、八八九)の市町村制施行によって、十四町村の合併によって生まれました。当時の人口は三、六四四名(七二〇戸)でした。

会員の皆様はご存知のことと思いますが、紙面の許す限り足早に古代からの地形から触れさせていただきたいと思えます。

かつて房総半島は十万年以上前は「古東京湾」の中にあり、大部分が海でありました。

氷河期にはアジア大陸とつながっていて、ナウマン象なども歩き廻っていたものと思われまます。その証拠に、印旛沼捷水路掘削のとき、地下二十メートル位のところから化石が発見されています。

時代は下って地殻運動によって房総半島が形作られ印旛沼や霞ヶ浦が取り残されました。

その時代が海底であった証として貝の化石層「上岩橋貝層」(県指定文

化財昭和五十年三月)があります。本佐倉の根古谷には百四十種類もの化石があります。

町の名は天喜年間(一、〇五三)頃「八」頃の「養老の井戸」の孝子説が元となったと思われまます

二、本佐倉城

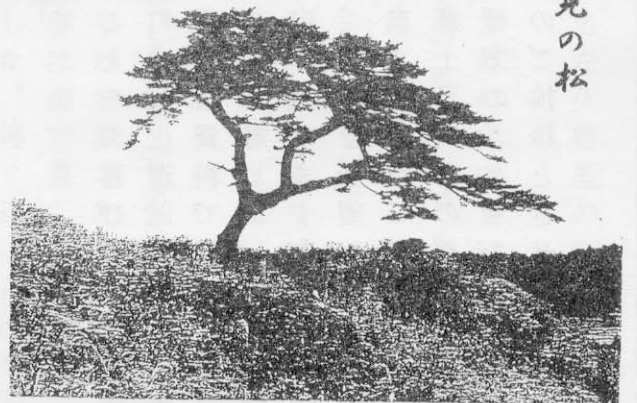
桓武天皇の流れをくむ「千葉一族」は文明年間に築城し、天正一八年(一、五九〇年)秀吉によって小田原で滅亡するまでの百二十余年九代にわたって栄えたところです。これは国指定の文化財になっています。

城下町らしく寺院の数は多く、廃寺を含めて三十五以上を数えます。

本佐倉城跡は全部合わせると約二十万平方メートルはあるとの説です。城跡ノ北東にある東山と呼ぶところの高台には通称「物見の松」と呼ばれた大きな松の木がありました。盆栽をそのまま何百年もの間大きくした様な形のよいものでした。

昭和五十二年頃には枯れ始めましたが、私と父が幹周りを計ったところ大人三人でもまだ三十センチほど余っていました。残念なことに今では写真にしか残っていません。

物見の松



「義民ロード」を歩く

穂満 弘道

バスを降りると「甚兵衛公園」である。義民ロードはここから始まる。

日本名松百選に選ばれた黒松の群生地、水神社が祀られ、甚兵衛供養堂が建つ。甚兵衛渡しがあつた地というが面影はない。彼岸花とコスモスが彩りを添えている。

秋の気配漂う九月末日、十九名で青空の下を歩く。集落を過ぎると明るい田園風景が広がり、刈り取り後の薄緑の田に白鷺が舞い下り、目を楽しませてくれる。

語らいながら歩くうち「宗吾旧宅」に着く、義民木内惣五郎の生家である。穏やかなたたずまいを見せる。十六代目の当主が健在で、惣五郎にまつわる話を語ってくれた。処刑後の木内家に対する処遇とか、惣五郎の戒名・院号が後年の藩主から贈られたいきさつなど、その背景に興味をそそられた。

県道沿いの鳥居は「麻賀多神社」である。参道奥小高い所に寛文十三年（一六七三）建立の流造り様式の本殿が鎮座している。延喜式内社の格式を持ち、近在麻賀多神社一八社の惣社でもある。境内奥には樹齢千三百余年の御神木「公津の大杉」がそびえ、崇められている。

疲れと空腹感で口数も少なくなりながら、長い坂を登りきると「宗吾霊堂」である。真言宗豊山派鳴鐘山東勝寺が管理する仏堂で、惣五郎を供養する堂である。門を入ると参道直ぐ右手に惣五郎親子の墓があり、毎日、香華が絶えないという。山門、鐘楼の奥に大本堂があり、惣五郎及び行動を共にした名主五人の霊が祀られている。本日探訪の終着点である。解散後各自昼食を済ます。義民ロードの終点宗吾参道駅を経て

帰路に着いた。高木副会長の懇切な解説を受けながら歩いた、楽しい探訪であった。

### 義民ロード



沼里の渡し場跡の曼珠沙華  
丸山 悦子  
木の実落つ宗吾旧宅守りて老  
樽田や義民ロードは古利まで  
ひつじだ

### 戦争体験を語る

戦後六十年を記念して「戦争のおはなし」を酒々井小学校六年生を対象に十一月九日行った。  
郷土研究会から青木会長をはじめ上田、高木、桜井、岡田の五名が講師となり三クラスの児童に一時限、戦争中の空襲・軍隊・学徒動員・生徒の学校生活・B29墜落・食糧難などについて話をした。  
また当時のおやつ「糠ダンゴ」を上田副会長が持参して児童全員に試食してもらった。  
児童が次のような感想文を書いてくれました。

いろいろな戦争があり大変だと思  
いますが辛いこと、悲しい  
ことを全部話してくれてとても勉強  
になりました。最後に「マツシカ」  
番心の中に残りました。今のこの平和  
をまたにないようにこの平和をずっと  
支えていきたいです。いろいろな話し  
疾が出そうになりました。戦争を一度  
とおこなはなければいけない時は  
せつたりに起こさなければいけない事  
も学べてよかったです。本当にありがた  
うございました。

総会案内

郷土研究会第三十回定期総会を平成十八年一月二十九日(日)午後一時三十分より中央公民館研修室に於いて開催いたします。

会員の皆様におかれましては何かとお忙しいことかと存じますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

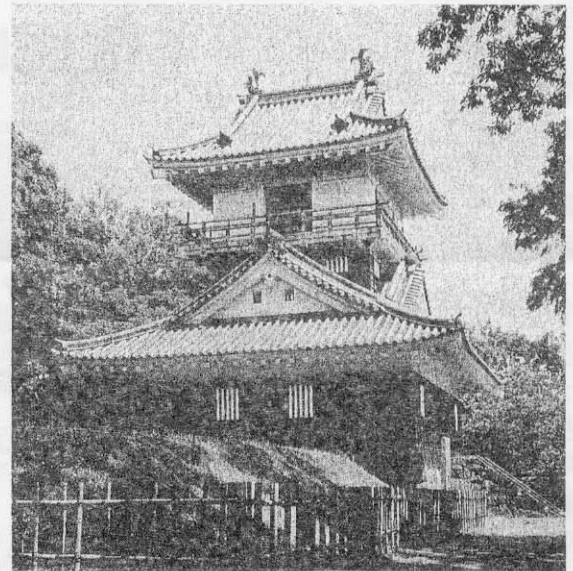
大多喜城

久留里城を訪ねて

重 昆 順二

十二月二日、やわらかい朝日の中央公民館よりバスにて、大多喜を目指して出発、「見学会」初参加の私にとって、車中での青木会長のご挨拶を拝聴し、車窓の風景にも、胸躍らせての一日となりました。

大多喜城は何度か目にしていたので一度行って見たいと思っていた所でした。この城は、上総大多喜城本丸跡に現代風に建設された、天守閣造りの歴史博物館で、三層四階コンクリート造りの館内には、鎧や刀などの武器、当時の生活道具が展示され、また四階の東側・北側の窓



久留里城址天守閣

からは町が見下ろせ、南側は夷隅川の流れが見える、自然の要害利用の城です。しかし城は一八四二年、城下からの火災で焼失されたとあります。城下のメインストリートは、佐倉と同様に鉤型を取り入れ、家並も美しく、重文の渡辺家住宅も見られます。町の名物の十万石最中を土産に、昼食は「道の駅たけゆらの里 おおたき」で、竹炭の入った黒色の蕎麦に舌づつみを打ち、次の目的地に向いました。房総丘陵は紅葉真っ盛りでところどころに柿の実や、干し柿の風情も見られ、三十分ほどで、

名水でも有名な久留里の町に入りました。

城は町はずれの山の上にある為、坂になっていているトンネルを抜けると、杖が用意されている急坂を、皆笑顔で登りきりました。

右手には資料館があり城・武士・郷土の資料展示がされています。ここから更に本丸跡に向います。小さくて可愛らしい天守閣は入館無料で、上階からは紅葉した房総の山並みが見え、春は桜で美しい城になると思われました。帰り道は古城当時の道をたどり下山し、全員無事に帰路につきました。

会長・副会長をはじめ幹事の方のご苦勞に深く感謝いたします

会計報告

大多喜・久留里方面	
収入	@1.500 円×34名 =51.000 円
支出	食事代 25.500 諸雑費 17.140 計 42.640
残	8.360 円 (研修部へ)

見学

案内

名勝探訪

初詣・明治神宮

一月十八日(水)  
雨天代替一月二十日(金)

青々とした木々の森・小鳥の楽園  
でもあり、毎年の初詣には日本一の  
人出を誇ることで有名な明治神宮に  
行きます。

木造では日本一大きい「明神鳥居」  
をくぐり、しばらく進むと、素朴な  
ながら気品あるたたずまいの本殿が見  
えます。玉砂利を踏んで参拝を済ま  
せ神宮の森をあとにします。  
ケヤキ並木の表参道周辺で昼食を  
とります。

食後は、若者であふれる  
竹下通りを抜け、  
東郷神社に参拝  
しタレントシ  
ヨップやお  
土産店を見  
ながら酒々  
井に帰って  
きます。



日帰り見学会

三月八日(水)  
雨天決行

いすみ市方面

まだ少し寒いかもしれませぬ。  
万木城跡、ここはわが町が誇る本  
佐倉城跡と同じ頃の城で城跡からは  
焼き米が出土し、困難な戦いで落城  
したことを物語っています。  
今は美しい公園に姿を変え、天守  
閣をかたどった展望台からは太平洋  
が一望できます。付近のネイチャー  
センターで昼食を摂ります。

海雄寺はお釈迦様が堂の中で横に  
なっていて、寝釈迦様と呼ばれ江戸  
時代に近在の人々の寄進によって造  
られたもので珍しいお寺です。  
終わりに不動尊第三十四番の宝勝  
院に寄り帰路につきます。

あとがき

平成一八年、明けましておめでと  
うございます

初頭の会報、行事など如何ご覧下  
さいましたでしょうか。

会員の皆様がそれぞれのサークル  
活動、生涯学習の成果、温故知新を  
基本としたご意向とお力を郷土研究  
会に反映させていただけなかつたか切  
に望んでおります。何卒よろしくお  
願います。

世の人々の心を寒からしめる数々  
の現象、事件の報道は誠に無残なこ  
とですが、そんなこんな嫌な事が起  
こらぬ安心できる年に、世の中にな  
って貰いたいです。

郷土研日誌

月日	内容	参加者
17・9・27	会報編集	5
9・28	会報印刷	3
9・29	会報発送	13
9・30	義民ロード名勝探訪	19
10・1	勉強会	16
10・7	日帰りコース受付	3
10・18	古文書を読む会	10
10・26	研修部会	7
10・27	戦争体験談打合	5
11・7	日帰りコース下見	2
11・9	酒小で戦争体験談	5
11・15	古文書を読む会	7
11・17	会報打合	4
11・26	運営委員会	18
12・1	会報編集	5
12・2	大多喜・久留里見学会	34
12・3	史談会	14
12・7	谷中方面下見	4
12・8	会報編集	4
12・14	谷中方面名勝探訪	27
12・15	会報編集	5
12・22	会報校正	5

## 郷土研行事案内

平成18年1月～3月

	1 月	2 月	3 月
史談会	休 講	休 講	4日(土) 13:30 中央公民館会議室 「古今佐倉真佐子」(22) 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	休 講	21日(火) 13:30 プリミエール酒々井 「島田家文書」(23) 講師：青木朝次会長	休 講
名勝探訪	<p>「初詣で・明治神宮」 1月18日(水) 雨天代替日 1月20日(金) 参加費 100円</p> <p>集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅 コース 京成酒々井駅—日暮里駅—原宿駅…明治神宮…(自由昼食) …東郷神社…原宿駅—日暮里駅—京成酒々井駅 17:00 帰着予定 * 問合せ 寺本 ( ) まで</p>		
野草の会	<p>「七草粥を食べる会」 2月10日(金) 会場 中央公民館講堂(受付 11:00; 会食 11:30) 定員 70名 会費 700円</p> <p>参加受付 参加希望者は、最寄りの運営委員にお申し込み下さい。 総会(1月29日)当日にも受付けます。 当日、お手伝いして下さる方は、9:00頃 調理室にお出で下さい。 * 問合せ 犬島 ( ) まで</p>		
日帰り見学会	<p>「夷隅(いすみ)方面」 3月8日(水) 雨天決行 定員 33名 町バス利用 参加費 1,300円(昼食代を含む)</p> <p>申込受付 1月29日(日)(総会当日) 13:00 コース 中央公民館—万木城跡—ネイチャーセンター(昼食)—海雄寺 —宝勝院—中央公民館 16:30 帰着予定 キャンセル 実施3日前まで 寺本 ( ) へご連絡下さい。</p>		
第30回 総会	<p>1月29日(日) 中央公民館研修室(2階) 受付は、1階ロビー 受付 13:00 開会 13:30 年会費 1,000円をご用意下さい。 《議題》 ・平成17年度事業報告及び決算の承認について ・平成18年度事業計画及び予算案について ・その他</p>		